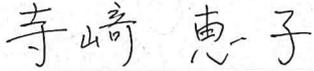


会議の開催結果について

- 1 会議名 令和7年度 第2回上尾市幼児教育推進協議会
- 2 会議日時 令和8年2月13日(金)
午後2時00分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 上尾市青少年センター 会議室2、3
- 4 会議の議題
 - (1) 報告
 - ア 令和7年度上尾市幼保小連携合同研修会について
 - イ 上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察について
 - (2) 協議
 - ア 架け橋期のカリキュラムモデルについて
 - イ 現状と課題を踏まえた幼保小の円滑な接続について
- 5 公開・非公開 公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 0名
- 8 問い合わせ先 上尾市教育委員会学校教育部指導課
048-775-9672

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回上尾市幼児教育推進協議会	
開催日時	令和8年2月13日(金) 午後2時00分から午後3時30分まで	
開催場所	上尾市青少年センター 会議室2、3	
議長(委員長・会長)氏名	寺崎 恵子	
出席者(委員)氏名	(1号委員) 寺崎 恵子 森田 満理子 (2号委員) 菅原 真弓 田中 由利子 (3号委員) 稲田 英明 小山 隆行 (4号委員) 瀧沢 葉子	
欠席者(委員)氏名	興野 邦孝	
事務局(庶務担当)	【事務局】 学校教育部：瀧澤 誠 島田 栄一 指導課：武田 直美 高橋 恭之 鈴木 一徳 【関係課】 保育課：小玉 優子	
会議事項	1 議 題	2 会議結果
	【報告】 ・令和7年度上尾市幼保小連携合同研修会について ・上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察について 【協議】 ・架け橋期のカリキュラムモデルについて ・現状と課題を踏まえた幼保小の円滑な接続について	別紙のとおり
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会議資料	・次第 ・(資料1) 令和7年度上尾市幼・保・小連携合同研修会実施報告 ・(資料2) 上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察実施報告 ・(資料3) 協議資料 ・(資料4) 令和7年度上尾市幼児教育推進協議会委員名簿	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和8年3月28日 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 議長(委員長・会長)の署名 議長に代わる者の署名 (議長が欠けたときのみ) </div> <div style="text-align: center;">  _____ _____ </div> </div>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	本協議会は、「審議会等の会議の公開に関する指針」の「3 会議の公開」により、公開するものとなります。本日は、傍聴の申出はございますか。
事務局	本日の傍聴の申し出はございません。
委員長	それでは、協議進行に移らせていただきます。はじめに報告事項「令和7年度上尾市幼・保・小連携合同研修会について」事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>令和7年度第1回上尾市幼・保・小連携合同研修会について、ご報告させていただきます。研修会には、市内の小学校教諭、幼稚園教諭、保育士など計84名が集まり、設置主体の枠を超えて「子どもの育ちの連続性」について深く学び合いました。</p> <p>研修ではまず、令和6年度の実践園である浅間台幼稚園とカオル幼稚園の教諭より、特色ある幼児教育の実践事例を発表いたしました。続くグループ協議では、「実践事例から考える『10の姿』のつながりと育成」をテーマに、各施設での具体的な取り組みや子供たちの姿について情報交換を行いました。特に「架け橋期のカリキュラム」を巡る議論では、園での遊びや学びが小学校以降の生活や学習にどう繋がっていくのか、それぞれの立場から活発な意見が交わされました。</p> <p>参加者感想として、「小学校での活動や、園での活動を理解することができた。」という異校種間の相互理解を促進できたという意見や、「事例発表や協議を通して、どのように小学校の学びに繋がっているかを具体的にイメージできるようになった。」という「10の姿」の具体化という意見を多くいただきました。</p> <p>一方課題としては、「時間が足りない」「もっと深く話したかった」という意見が多く参加者からいただきました。研修会をより有意義な時間とするために、事務局として検討しなければならないと強く感じたところでございます。</p> <p>続けて、第2回 上尾市幼・保・小連携合同研修会について御報告させていただきます。第1回研修での熱心な議論を受け、今回はさらなる対話の深化と、具体的な連携施策の模索を目的として実施いたしました。</p> <p>第1部の講義では、聖学院大学准教授の寺崎恵子様より「子どもたちの対話に耳をかたむける」というテーマで御講義をいただきました。架け橋期における子どもへの心理的アプローチを学び、教職員自身の視点をアップデートする貴重な時間となりました。</p> <p>第2部のグループ協議では、第1回で多くの参加者から指摘された「協議時間の不足」という課題を解消すべく、時間を拡充いたしました。これにより、現場の相違や具体的な交流の方法について、じっくりと意見を交わすことができました。参加者からは、「今回は全員で話をする事ができた。」「情報交換で盛り上がるまで話せた。」と、協議時間について、よい評価をいただきました。また、「オンラインよりも距離感が近くなる」とい</p>

	<p>う意見もいただき、直接顔を合わせることで、前回以上に踏み込んだ相談ができるということについても御意見をいただきました。</p> <p>一方で、グループ協議の中で、「交流が進んでいる施設」と「できていない施設」の差が鮮明になりました。また、忙しい中、「いつ、どのように連絡をとればいいかわからない。」「もっと気軽にやり取りがしたい。」という意見をいただき、交流したい意欲はあるものの、「いつ、誰に、どのように連絡するか」といった具体的なことが分からず、二の足を踏んでいる現状を把握することができました。</p> <p>今回、出てきた課題を来年度以降改善できるよう、取り組んでまいりたいと思います。報告は以上です。</p>
委員長	第1回と第2回の時に、グループ編成を工夫されたと聞きました。
事務局	第1回では、近隣の小学校と幼児施設でグループを編成いたしました。互いに、1年間どのような形で交流ができるかということをお話し合ってもらおうという目的のためです。第2回については、地域を分散して組ませていただきました。理由といたしましては、別の地域の取組を理解することをねらいとしたためでございます。
委員長	<p>グループ編成を変えるだけでも話し合う内容が変わっているなど印象を受けました。先生方が熱心で、いろいろなことを学び合いたいという気持ちを感じられました。</p> <p>また第2回は、これまでオンラインでの実施でしたが、今回は参集型に変更しました。お互いに顔を合わせて話をすることも重要性を感じました。</p>
田中委員	第1回は、保育園側が遠慮している感じがしました。事例を説明する中でどこまで相手がわかってくれるのかという不安を感じられた気がいたしました。しかし、第2回は、事例をもっていくことがなかったので、その不安が軽減したように感じられました。また、保育園の先生は9月から10月くらいに情報交換で小学校に行っております。そのため、先生方が意見を活発に言えているように感じました。
瀧沢委員	第1回は、固いように感じました。第2回は、生活や着替え、図工の粘土などの身近な課題意識のあるものを取り扱っていたので、意見が活発に出ていたと思います。
委員長	<p>具体的に身近なことを取り扱ったことがよかったのではないのでしょうか。</p> <p>参加者からの感想で「小学校からも発表してもよいのではないか」という意見がありました。小学校としては可能であるのでしょうか。</p>
瀧沢委員	可能であると思います。準備のこともあるので早い段階で言っただけるとよいと思います。
菅原委員	2回目の方が、1回目よりも活発に意見交換ができていました。幼児施

	<p>設の職員が、小学校に向けて何を準備しなければいけないのかということが分かってきたので、質問しやすかったのではないかなのではないのでしょうか。参集型で行ったことはよかったと思います。</p>
委員長	<p>グループ協議の中で、何か気になる意見などありましたか。</p>
瀧沢委員	<p>手で土を触る経験が少ないという話をしているグループがありました。それが図工になったときに発想が広がらないという話をしていたグループが印象に残っています。先生方が、遊びと学びに関わることを深く話をしていたことがよかったです。</p>
委員長	<p>2回目に実施した講演の際、参考にしたのは生活科の小学校学習指導要領です。小学校では、生活科を中心として、その他の教科とのつながりを意識するようになっております。学習指導要領を読み込む上で、国語や算数などの他教科では、「～できる。」という書きぶりであるが、生活科は異なっています。</p> <p>どのような点に着目するかという「見方」について考えなければならぬと感じました。そうすることで子供の活動が見えてくるのではないのでしょうか。子どもたちがどのように学んでいるのかを、具体的に捉えていく必要があると思います。</p>
委員長	<p>続いて報告事項2「上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>2月8日に実施されました「上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察」についてご報告いたします。今回の視察は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとした保育の実践と、小学校への接続の現状を把握することを目的に、上尾市立原市保育所、及び原市文化認定こども園の2施設を訪問いたしました。</p> <p>まず、原市保育所では、数十年にわたり継続されている「リズム体操」や、自作の縄跳びを使った活動を視察しました。委員からは、乳幼児期から手先を動かす体験を積み重ねるとともに、自分たちで道具を作ることで、意欲的に運動に親しむ姿が高く評価されました。特に、雑巾がけや平均台といった日々の積み重ねが、子どもたちの体幹の強さや、順番を待つといった社会性の基盤を作っているとの意見が出されました。</p> <p>次に、原市文化認定こども園では、長年続く「硬筆」の指導を視察しました。30分間、正しい姿勢で集中して話を聞き、鉛筆の持ち方を学ぶ子どもたちの姿に、小学校関係の委員からは驚きとともに、「正しい持ち方や書き順の基礎があることは、小学校での学習へのスムーズな接続に寄与する」と前向きな評価がありました。一方で、「幼児期の文字指導」については、発達の個人差も考慮し、一律の指導よりも言葉への関心を育む姿勢が重要であるという専門的な視点での議論も交わされました。</p> <p>視察後の意見交換では、各委員より多くの意見をいただきました。共通して語られたのは、「日々の積み重ねが子どもを作る」という点です。どちらの園も礼儀正しく、人との関わりや片付けといった生活習慣が丁寧に指</p>

	<p>導されており、小学校関係の委員からは「非常に心強い」との声がありました。</p> <p>一方で、今後の検討課題も明確になりました。それは、「各園の特色ある指導」と「子どもの主体的な思い」のバランスです。「教えられたことを受け止める力」だけでなく、子ども自身の中から湧き出る「やりたい」という意欲をどう育むか。そして、園によって異なる多様な取組を、小学校がいかに柔軟に受け止め、円滑な「架け橋」を築いていくかという点です。</p> <p>今回の視察は、幼児期の育ちが多面的であることを改めて実感する機会となり、上尾市が目指す「架け橋期プログラム」の充実に向けて、非常に有意義な時間となりました。報告は以上です。</p>
菅原委員	<p>昔からやっている取組が、「小学校の学びにつながっている」との肯定的な意見をいただき、安心しました。</p>
稲田委員	<p>硬筆を見てもらったが、単純にひらがなを指導するというのではなく、集中力・忍耐力や、正しい姿勢などに重きを置いてやっているところがあります。時代とともに変化していく必要があると感じているので、今後も時代に合った取組をしていきたいと考えております。</p>
委員長	<p>合同研修会のグループ協議の中で、小学校に入ってから文字を書く力がないことや学習障害があることに気付くという話をしていたグループもありました。どうしていくのがよいか、小学校からの意見を聞きたいと思えます。</p>
瀧沢委員	<p>個別に対応することはありますが、対応の仕方については、しっかり定まっていないのが現状であります。何度やっても書き順が全く定着しない子もいます。</p> <p>通常の学級の中で指導できるのか、特別支援の指導になるのかという分け方しかできないのが現状であります。</p>
委員長	<p>人数的には増えているのでしょうか。</p>
小山委員	<p>増えていると思います。気になる子は多くなってきています。職員の配置もしなくてはならないが、人数が増えてくるとより大変になってきてしまいます。</p> <p>特に小学校は、人数が増えるので、どのようにやっていくのかが今後の課題になってくると感じます。今はマンパワーでなんとかなっているが、今後も人と人で対応していかなければなりません。ぜひ、今後の整備をお願いしたいです。</p>
委員長	<p>人と人が同じものを見ながら、そばで共有していくことが大切です。担任一人でやっていくのは大変です。一人一人にしっかり関わっていけるようにしていくことが必要になってくるのではないのでしょうか。</p>
瀧沢委員	<p>小学校には、アッピースマイルサポーターという学習支援をする方がい</p>

副委員長	<p>ます。学習が苦手な子の隣で、読み上げたり、指を指して一緒に読んだりするなどの支援をしています。そうすることで学習に参加することができ、非常に効果的な支援ができています。現在、主に低学年に配置していますが、中学年でも必要と感ずることがあります。</p> <p>子どもの文字習得の仕方については、保育者が学ぶことが多くあるのではないかと感ずています。小学校からというわけではなく、普段の環境の中でやっていかなければならないと感ずています。生活の中に遊びとして、取り入れていく必要があると思ずいます。そこをしっかりとっておかないと、小学校へ進学した際に、子どもも先生も大変になってしまうのではないのでしょうか。</p> <p>また、先生方にとっては日々多忙で、専門性が増しています。その中で、子どもとの対話を通して、個別具体的な指導が必要であると思ずております。</p>
委員長	<p>昔よくやっていたじゃんけんして「チ・ヨ・コ・レ・イ・ト」と言って進んでいく遊びは、一音一語を体の感ずとして学んでいたものであります。遊んでいる中でも、「活かそうだな」ということが少しでも意識付けとしてあれば、違う見方ができるようになるのではないのでしょうか。</p>
副委員長	<p>今年度の研修の在り方はよかつたと思ずいます。以前、事例を用いて議論する研修をしたことがあります。そこで本音がよく出ているという経験がありました。事例を話し合う中で生まれた新たな話題や問題に対して、話を深めることができます。そのようなプロセスを経ることで、目的と一緒に発展させ、共有することができ、学び合う仲間になっていくのではないのでしょうか。そういった文化ができていくと、もっと素直に意見を言い合える環境になると思ずいます。まだ遠慮して、本当に思っていることが言えていないように感ずるので、まず、顔を合わせてみるということは重要であると思ずいます。</p>
田中委員	<p>小学校の先生にもっと保育園のことを知ってほしいです。また保育ももっと小学校のことを知ってほしいと感ずています。申し送りの際に話をすることはありますが、そうではなく、話を対等にできる関係性をつくるのが大切だと思ずいます。</p> <p>今年度、私立保育園協会から小学校に、情報交換をやらせてほしいという申し込みを行いました。実際行った先生たちからは、「行ってよかつた。」という意見が出ていました。このような交流を学校に任せるのではなく、教育委員会が主導で実施することは可能なのではないのでしょうか。</p> <p>顔が見えて、相手と通じ合える関係性ができていかないとカリキュラムやその他の話をして、なかなか深まっていかないと思ずいます。カリキュラムをつくるためには、お互いの子どもの活動の様子を見ていないと合わせられないのではないと思ずいます。幼・保・小、公立、私立、みんなで足並みをそろえてやっていかないと、この連携が進展しないのではないかと考ずえます。</p> <p>交流に際して、小学校としては、どのようにしたらいいのか教えていた</p>

<p>瀧沢委員</p>	<p>だきたいです。</p> <p>交流に参加した先生方も、その時には意義深かったと思うかもしれないが、戻れば明日からの授業があるため共有に時間が割けないことも事実であります。しかし、情報交換会は、必要であるし、有意義であると思います。</p> <p>現在多くの学校で行っている情報交換会では、子どもの情報を共有し、学級編成に生かすことができている。そのようなことが目的であれば、今のままでよいと思います。しかし、この協議会のように「子どもの育ち」や「カリキュラム」といった内容を話し合うということとなると、先生たちはあまりに時間がなく、難しいと思います。</p> <p>市で専門委員や推進委員のような役職を設け、進めていくことも一つなのではないでしょうか。全部の学校で一斉に交流をしようとするは大変ですが、そのような委員の先生たちだけであれば、交流をしやすくなると思います。専門性をもった先生を少しずつ増やし、広げていけるとよいのではないのでしょうか。</p>
<p>稲田委員</p>	<p>幼稚園としても、ぜひ交流会を行いたいと考えています。幼稚園が小学校に行くだけでなく、小学校が幼稚園に行くという逆のパターンも必要だと思います。園児の姿を見てもらうという機会をつくりたいと考えています。</p>
<p>田中委員</p>	<p>小学校も 1 回行っただけではわからないと思います。そのため、交流を続けていくという環境を整えていくことが必要だと感じます。</p> <p>互いの交流を続けていけば、上尾の教育の根源が深まっていくと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>幼・保・小に限らず、小・中でも同様であると考えます。お互いを理解していくことが大事であると思います。その機会をどうつくっていくのかを今後検討していきます。</p> <p>今年度の交流会は全ての小学校で実施したのですか。</p>
<p>田中委員</p>	<p>園で希望をとって、実施しました。そのため、1つの小学校に集まる園の数は、違いがありました。</p>
<p>瀧沢委員</p>	<p>本校では、まさに本日交流会が実施されました。普段の授業の様子を見ていただきました。</p>
<p>小山委員</p>	<p>園としては、卒園児の様子が気になります。職員が学校に行って、普段の様子を見るということはとても意味のあることだと思います。就学前までに、どこまで育てたらよいのかというような情報交換をしたいです。</p> <p>また、できれば、小学校の先生にも幼稚園の様子を見てもらうこともやってもらいたいです。幼稚園では最高学年だが、小学校に入ると一番下の学年になってしまいます。幼稚園では胸を張って堂々としていたが、小学校になると委縮してしまう子もいるのではないのでしょうか。子供たちが胸</p>

	<p>を張った状態で小学校生活が送れるような接続をしていくための情報交換会をしたいと考えています。</p>
瀧沢委員	<p>できると思います。今は、子どもたちがメインで交流会を実施しているが、教員同士の情報交換がメインであるということを打ち立ててやっていけばよいと思います。</p>
小山委員	<p>1学期から幼稚園と小学校の生活の様子をすり合わせができれば、1年をかけて目指すべき子供の姿に近づけることができるのではないかと思います。</p>
田中委員	<p>上尾市の場合は、私立幼稚園と保育園、公立保育園と種類が異なっているため統一の取組を行うことは難しいが、やはり連携していかなければならないなと感じます。</p>
委員長	<p>カリキュラムをつくるということは、まさにそういうことであります。カリキュラムとしてモデルはあるが、そこに当てはめて、その通りにやっていかななくてはいけないということではありません。どのような繋がりができて、そこからどう踏み込んでいくのかということのを架け橋期ではねらっています。</p>
委員長	<p>続いて協議事項「架け橋期のカリキュラムモデルについて」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日2つの協議を予定しておりましたが、2つめの「現状と課題を踏まえた幼保小の円滑な接続について」は、先ほど委員の皆様から意見を頂戴したところが、まさに円滑な接続についての内容でございました。そのため、この後の協議については、1つめの「架け橋期のカリキュラムについて」のみを扱わせていただきます。</p> <p>今回の見直しの大きな目的は、前回の協議でもご意見をいただいた「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を、単なる目標ではなく、子どもの具体的な遊びや活動を見取る「視点」として定着させることであります。</p> <p>主な変更点は、大きく分けて2点です。1点目は「10の姿」との関わりの明記でございます。活動そのものを10の姿に当てはめるのではなく、「その活動が10の姿のどの部分と関わりあっているのか」ということをカリキュラムに明記します。これにより、遊びの中にある学びを可視化したり、小学校の資質・能力との接続を明確にしたりしていくことを目指しています。2点目は「交流」の具体化と充実です。カリキュラムに「子ども同士の交流」及び「教職員同士の交流」の計画を明記します。継続的な幼保小の交流を行っていき、学びの連続性を担保するための重要な仕組みとして位置付けました。</p> <p>今後の予定といたしましては、本日の協議会で新様式について委員の皆様よりご了承いただき、来年度の幼保小連携合同研修会において、各施設においてカリキュラムの作成を行ってまいります。そして、令和9年度より</p>

田中委員	<p>新たなカリキュラムを活用した指導を開始したいと考えております。説明は以上です。</p> <p>複数の姿が関わる場合は、どのようにしたらよいですか。</p>
事務局	<p>1つの活動につき、1つの姿でなくても構いません。あくまでも該当の活動を10の姿で捉えなおした時に、どこと連携しているのかということを記載して行ってください。</p>
田中委員	<p>令和9年度からの実施でよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>その通りでございます。</p>
委員長	<p>委員の皆様、活発な協議、ありがとうございました。</p> <p>以上で、協議を終了いたします。皆様の御協力に感謝申し上げます。</p>